

(第1面)

産業廃棄物処理計画書	
令和 6 年 6 月 12 日	
島根県知事 丸山 達也 殿	
	提出者 住 所 島根県益田市久々茂町イ330番地 氏 名 東西建設有限会社 代表取締役 吉部 剣一 電話番号 0856-22-2188
廃棄物の処理及び清掃に関する法律第12条第9項の規定に基づき、産業廃棄物の減量その他その処理に関する計画を作成したので、提出します。	
事業場の名称	東西建設有限会社
事業場の所在地	島根県益田市久々茂町イ330番地
計画期間	令和6年4月1日～令和7年3月31日
当該事業場において現に行っている事業に関する事項	
①事業の種類	総合工事業
②事業の規模	200,000千円
③従業員数	13人
④産業廃棄物の一連の処理の工程	産業廃棄物発生（工事現場）⇒収集・運搬（自社、委託）⇒処分（処理業者） 建設工事 ・がれき類（コンクリート塊）⇒再生処理業者に委託して、再生砕石として再資源化。 ・木くず⇒再生処理業者に委託して、再資源化。 ・廃プラ、金属くず、紙くず、ガラス等⇒全処理委託。

産業廃棄物の処理に係る管理体制に関する事項			
(管理体制図)			
社 長 廃棄物担当役員 工務課 産廃責任者 現 場 代 理 人 現 場 代 理 人 現 場 代 理 人 総務課事務担当			
産業廃棄物の排出の抑制に関する事項			
① 現状	【前年度（ 令和5年度 ）実績】 ※別紙1のとおり		
	産業廃棄物の種類		
	排 出 量	t	t
	(これまでに実施した取組) ・ 中間処理業者に委託する再生利用を促進する ・ 処理内容を確認し、処理業者と適正な委託契約を締結する。		
②計画	【目標】 ※別紙1のとおり		
	産業廃棄物の種類		
	排 出 量	t	t
	(今後実施する予定の取組) 上記内容を継続実施する。		
産業廃棄物の分別に関する事項			
①現状	(分別している産業廃棄物の種類及び分別に関する取組) コンガラ、アスガラ、木くず、廃プラスチック等各工事現場にて適正に区別し、石綿含有産業廃棄物についても他の廃棄物に混入しないよう確実に分別、保管する。		
②計画	(今後分別する予定の産業廃棄物の種類及び分別に関する取組) 上記内容を実施する。		

(第3面)

自ら行う産業廃棄物の再生利用に関する事項			
①現状	【前年度（ 一 年度）実績】		
	産業廃棄物の種類		
	自ら再生利用を行った 産業廃棄物の量	一 t	一 t
	(これまでに実施した取組)		
	*実施なし		
②計画	【目標】		
	産業廃棄物の種類		
	自ら再生利用を行う 産業廃棄物の量	一 t	一 t
	(今後実施する予定の取組)		
	*実施予定なし		
自ら行う産業廃棄物の中間処理に関する事項			
①現状	【前年度（ 一 年度）実績】		
	産業廃棄物の種類		
	自ら熱回収を行った 産業廃棄物の量	一 t	一 t
	自ら中間処理により減量した 産業廃棄物の量	一 t	一 t
	(これまでに実施した取組)		
*実施なし			
②計画	【目標】		
	産業廃棄物の種類		
	自ら熱回収を行う 産業廃棄物の量	一 t	一 t
	自ら中間処理により減量する 産業廃棄物の量	一 t	一 t
	(今後実施する予定の取組)		
*実施予定なし			

(第4面)

自ら行う産業廃棄物の埋立処分又は海洋投入処分に関する事項

①現状	【前年度（ 一 年度）実績】		
	産業廃棄物の種類		
	自ら埋立処分又は 海洋投入処分を行った 産業廃棄物の量	一 t	一 t
	(これまでに実施した取組) ＊実施なし		
②計画	【目標】		
	産業廃棄物の種類		
	自ら埋立処分又は 海洋投入処分を行う 産業廃棄物の量	一 t	一 t
	(今後実施する予定の取組) ＊実施予定なし		

産業廃棄物の処理の委託に関する事項

① 現状	【前年度（ 令和5年度 ）実績】 ※別紙2のとおり		
	産業廃棄物の種類		
	全 処 理 委 託 量	t	t
	優良認定処理業者への 処 理 委 託 量	t	t
	再生利用業者への 処 理 委 託 量	t	t
	認定熱回収業者への 処 理 委 託 量	t	t
	認定熱回収業者以外の 熱回収を行う業者への 処 理 委 託 量	t	t
	(これまでに実施した取組) 委託基準に従って、産業廃棄物を委託できる業者を選定し、書面による契約を実施。		

②計画	【目標】 ※別紙2のとおり		
	産業廃棄物の種類		
	全 処 理 委 託 量	t	t
	優良認定処理業者への 処 理 委 託 量	t	t
	再生利用業者への 処 理 委 託 量	t	t
	認定熱回収業者への 処 理 委 託 量	t	t
	認定熱回収業者以外の 熱回収を行う業者への 処 理 委 託 量	t	t
	(今後実施する予定の取組)		
	再生利用が可能である廃棄物は、再生利用業者へ処理委託する。		
※事務処理欄			

備考

- 1 前年度の産業廃棄物の発生量が1,000トン以上の事業場ごとに1枚作成すること。
- 2 当該年度の6月30日までに提出すること。
- 3 「当該事業場において現に行っている事業に関する事項」の欄は、以下に従って記入すること。
 - (1)①欄には、日本標準産業分類の区分を記入すること。
 - (2)②欄には、製造業の場合における製造品出荷額（前年度実績）、建設業の場合における元請完成工事高（前年度実績）、医療機関の場合における病床数（前年度末時点）等の業種に応じ事業規模が分かるような前年度の実績を記入すること。
 - (3)④欄には、当該事業場において生ずる産業廃棄物についての発生から最終処分が終了するまでの一連の処理の工程（当該処理を委託する場合は、委託の内容を含む。）を記入すること。
- 4 「自ら行う産業廃棄物の中間処理に関する事項」の欄には、産業廃棄物の種類ごとに、自ら中間処理を行うに際して熱回収を行った場合における熱回収を行った産業廃棄物の量と、自ら中間処理を行うことによって減量した量について、前年度の実績、目標及び取組を記入すること。
- 5 「産業廃棄物の処理の委託に関する事項」の欄には、産業廃棄物の種類ごとに、全処理委託量を記入するほか、その内数として、優良認定処理業者（廃棄物の処理及び清掃に関する法律施行令第6条の11第2号に該当する者）への処理委託量、処理業者への再生利用委託量、認定熱回収施設設置者（廃棄物の処理及び清掃に関する法律第15条の3の3第1項の認定を受けた者）である処理業者への焼却処理委託量及び認定熱回収施設設置者以外の熱回収を行っている処理業者への焼却処理委託量について、前年度実績、目標及び取組を記入すること。
- 6 それぞれの欄に記入すべき事項の全てを記入することができないときは、当該欄に「別紙のとおり」と記入し、当該欄に記入すべき内容を記入した別紙を添付すること。また、産業廃棄物の種類が3以上あるときは、前年度実績及び目標の欄に「別紙のとおり」と記入し、当該欄に記入すべき内容を記入した別紙を添付すること。また、それぞれの欄に記入すべき事項がないときは、「―」を記入すること。
- 7 ※欄は記入しないこと。

産業廃棄物の排出の抑制に関する事項

【前年度（令和5年度）実績】

①現状	産業廃棄物の種類	廃プラスチック	紙くず	木くず	繊維くず	ゴムくず	金属くず	ガラスくず	がれき類	石綿含有 産業廃棄物	合計
	排 出 量	10.0	1.3	1,300.9	0.1	0.0	0.3	0.0	111.0	0.0	1,423.6

【令和6年度 目標】

②計画	産業廃棄物の種類	廃プラスチック	紙くず	木くず	繊維くず	ゴムくず	金属くず	ガラスくず	がれき類	石綿含有 産業廃棄物	合計
	排 出 量	0.8	1.0	1,200.0	0.1	0.0	0.1	0.0	100.0	0.0	1,302.0

産業廃棄物の処理の委託に関する事項

【前年度(令和5年度)実績】

[illegible]

【令和6年度目標】

[illegible]